森林の
生物多様性を
高めるための林業経営の指針

概要版

林野庁

これまでの林野庁の生物多様性に関する取組

- 林野庁では、1999年から、持続可能な森林経営の推進する観点より、森林の状態を把握する「森林生態系多様性基礎調査※ 」を実施。
- 2009年には生物多様性条約第10回締約国会議を契機として「森林における生物多様性保全及び持続可能な利用の推進方策」を取りまとめ。
- 森林計画制度においても、生物多様性に配慮した森林の整備・保全の推進についても位置付け。

※全国を４kmメッシュで区切り、その交点に位置する森林を調査プロット（0.1ha）として設定（約１万５千点）

1999 → 2009

森林生態系多様性基礎調査
（2009年度までは「森林資源モニタリング調査」）

森林における生物多様性保全及び持続可能な利用の推進方策

- 生物相の維持に必要な様々な遷移段階の森林がバランスよく配置されること、モニタリング結果に合わせて対応を変える順応的管理の重要性等を明記。
- モニタリングに基づき、森林計画策定のプロセス透明化とともに、森林の適切な整備・保全、里山林の持続的利用による更新・再生、森林生態系のネットワーク形成（緑の回廊）等を図る。
- 「市町村森林整備計画」で、生物多様性保全を含む森林の機能に応じたゾーニングを推進。

バランスよく配置された森林（イメージ図）

（森林における生物多様性保全及び持続可能な利用の推進方策より）

森林計画制度

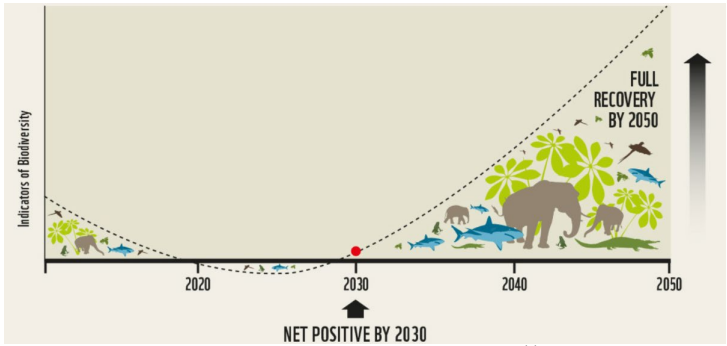
全国森林計画(令和５年10月閣議決定（策定）)
「全ての森林は多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与している」ことを踏まえて、「様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置されていることを目指す」こと等が記載。

市町村森林整備計画
民有林が所在する市町村が作成する森林整備に関する計画であり、地域の特徴を踏まえた森林整備の基本的な考え方やこれを踏まえたゾーニング、地域の実情に即した森林整備を推進。

生物多様性をめぐる国外の情勢

- 2022年12月に「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、2030年ミッションとして「生物多様性の損失を止め反転させるための緊急行動をとる」というネイチャーポジティブ目標が位置づけ。
- 目標達成に向け、23のターゲットを設定。劣化した生態系の回復、陸と海の30％以上を保全（30by30目標）、持続的な農林水産業、事業者の生物多様性への依存度や影響の評価・開示を推進。
- 企業活動における自然資本に関する財務情報開示に向けた国際的な動きが拡大。

ネイチャーポジティブ目標



図：https://www.naturepositive.org

「昆明・モントリオール生物多様性枠組」（2022.12採択）

2030年ミッション：自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

ターゲット２	ターゲット３	ターゲット10	ターゲット15
劣化した生態系の30%の地域を効果的な**回復**下に置く	陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保護地域及び**OECM**※により保全「**30 by 30目標**」	農業、養殖業、漁業、**林業地域が持続的に管理**され、生産システムの強靭性及び長期的な効率性と生産性（略）に貢献	**民間企業等が**生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存や影響を**評価・開示**

※OECM：保護地域以外で生物多様性保全に資する地域（ Other Effective area-based Conservation Measures ）

自然関連財務情報開示タスクフォース

TNFD Taskforce on Nature-related Financial Disclosures

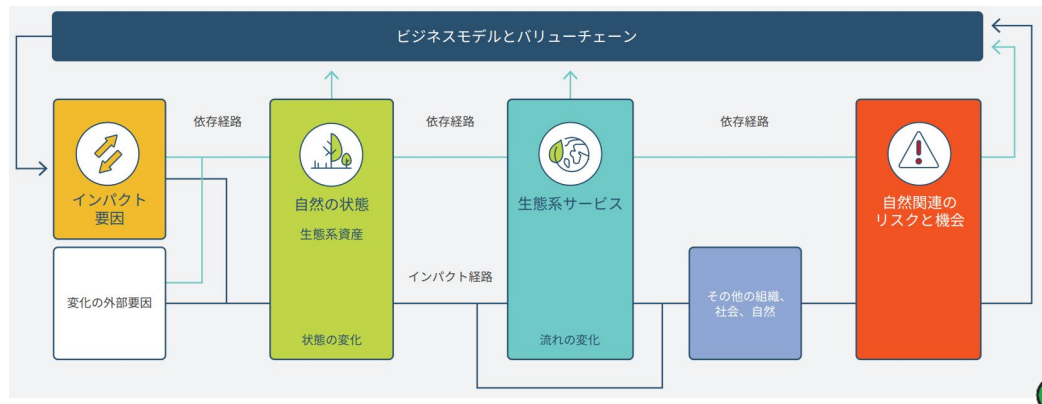
○　自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)は、2021 年 6 月に環境に関する国際機関・NGOの 4 機関が主導し設立。
○　TNFDは、ネイチャーポジティブな経済へと移行するため、企業が自然関連財務情報を開示する際に役立つガイダンスを作成し、2023年9月に公表。

TNFD提言における情報開示

➢ 情報開示に当たっての４つの視点と１４の開示項目があり、企業が抱える自然関連課題（依存とインパクト、リスク、機会）を特定し、評価することを推奨。

ガバナンス	戦略	リスクとインパクトの管理	測定指標とターゲット
自然関連の依存、インパクト、リスクと機会の組織によるガバナンスの開示。	自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織のビジネスモデル、戦略、財務計画に与えるインパクトについて、そのような情報が重要である場合は開示する。	組織が自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けし、監視するために使用しているプロセスを説明する。	マテリアルな自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標とターゲットを開示する。

情報開示に当たっての４つの視点



自然関連の依存およびインパクトとリスクおよび機会の間の関連性
（TNFDの提言 2023より抜粋）

生物多様性をめぐる国内の情勢

- 林野庁では、原生的な天然林や希少な野生生物の生育・生息地に必要な森林等を適切に保護・管理。また、多様な森林づくりの推進、施業現場における生物多様性への配慮等を実施。
- 令和５年から環境省により「民間等の取組によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」として認定する仕組みが開始。
- 令和７年４月に「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律」（環境省、農林水産省、国土交通省が共管）が施行され、民間等が作成した活動実施計画を認定する制度に移行。

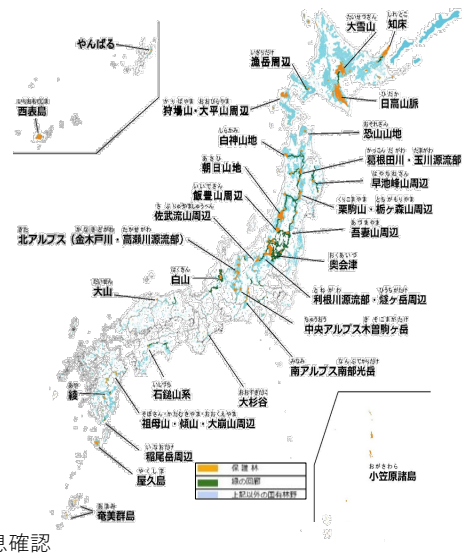
林野庁の生物多様性に貢献する取組

- 国有林野では、保護林や緑の回廊におけるモニタリング調査等を通じた適切な保全・管理を推進。

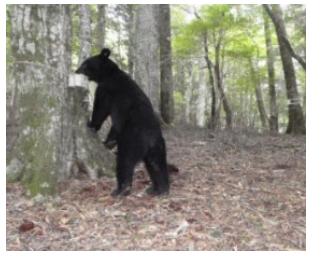
シマフクロウのヒナの保護
（北海道森林管理局管内）

世界自然遺産の白神山地
（秋田県藤里町）

■「保護林」と「緑の回廊」の位置図



世界自然遺産地域における
アカギの駆除（小笠原諸島）



保護林内での希少野生生物の生息確認
（ツキノワグマ・四国森林管理局管内）

- 多様な森林づくりの推進、森林の適切な保全・管理、主伐や再造林等の施業現場における生物多様性への配慮等を実施。

猛禽類の狩場創出

渓流沿い等の森林の保全

伐採時に広葉樹を保残

令和５年
自然共生サイト
→
令和７年４月
生物多様性増進法施行

民間等の取組により生物多様性の保全が図られている区域を環境省が認定

民間等による生物多様性を増進する活動実施計画を主務大臣*が認定
（*環境大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）

自然共生サイト

- 令和６年度までに46都道府県を含む328か所で認定。
→令和５年度認定サイトのうち、4.8万haをOECM登録。

認定事例

サントリー　天然水の森

水源涵養林を育てるとともに、
生物多様性を保全した森づくり

田島山業×みんなの森プロジェクト

スギ人工林を間伐しつつ、林内の広葉樹を保残し生物多様性保全に貢献

「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」策定の経緯

- 林野庁は、令和５年12月に外部有識者９名からなる「生物多様性保全に資する森林管理のあり方に関する検討会」を設置。
- 森林における生物多様性の課題を整理するとともに、これまで明確化されてこなかった生物多様性を高めるための林業経営のあり方について検討。
- 令和６年３月に「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」を策定・公表（令和７年３月改定）。策定に当たっては、パブリックコメントを実施、122件の意見提出あり。

森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針

林野庁

（生物多様性保全に資する森林管理のあり方に関する検討会）

令和６年３月

令和７年３月改定

生物多様性保全に資する森林管理のあり方に関する検討会委員名簿

氏　　名	職　　名
安藤（あんどう）　範親（のりちか）	株式会社　農林中金総合研究所　マネージャー
大河内（おおこうち）　勇（いさむ）	一般社団法人　日本森林技術協会　技術指導役
小泉（こいずみ）　透（とおる）	国立研究開発法人森林研究・整備機構フェロー
佐々木（ささき）　太郎（たろう）	全国森林組合連合会　参事兼総務部長
田島（たじま）　大輔（だいすけ）	田島山業株式会社　統括本部長
土屋（つちや）　俊幸（としゆき）	東京農工大学　名誉教授 一般財団法人林業経済研究所　所長
深町（ふかまち）　加津枝（かつえ）	京都大学大学院地球環境学堂　准教授
正木（まさき）　隆（たかし）	森林総合研究所　研究ディレクター （生物多様性・生物機能研究担当）
山田（やまだ）　健（たけし）	サントリーホールディングス株式会社 サステナビリティ推進部シニアアドバイザー

（五十音順　敬称略）

生物多様性保全に資する森林管理のあり方に関する検討会

「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」の概要

（1）策定の目的
生物多様性の保全に一層配慮した森林管理を通じた林業経営のあり方を明確化

（2）対象者
森林管理の担い手：林業事業体等（森林所有者・森林組合・社有林保有企業等）

（3）生物多様性を高める林業経営に取り組む意義
①生物多様性を高める林業は「生態系サービス*」の発揮に貢献
②民間企業との連携による生物多様性保全は林業経営の新たな収益機会を創出

森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針

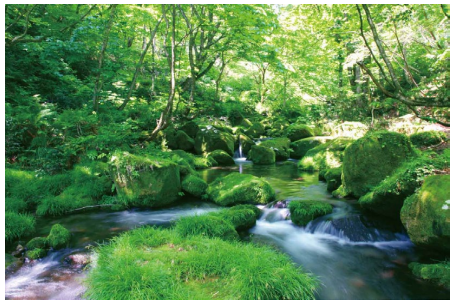
林業経営事例集

①生態系サービスの発揮に貢献

生息・生育地サービス

間伐による下層植生の繁茂

供給サービス：水の供給



森林整備による水資源の涵養

（事例集：サントリーホールディングスより）

調整サービス：国土保全

確実な再造林を通じた国土保全

（事例集：（株）GREEN FORESTERSより）

供給サービス：木材の供給

木材の利用

文化的サービス：レクリエーション

管理された里山二次林での森林サービス事業の展開

（事例集：（株）百森より）

②林業経営の新たな収益機会の創出

生物多様性に資する森林整備で創出したJ-クレジット販売収益を森林整備に再投資

（事例集：田島山業（株）・LINEヤフー（株）より）

企業版ふるさと納税を活用した生物多様性を高める森林整備等への資金提供

（事例集：群馬県みなかみ町、三菱地所株式会社、（公財）日本自然保護協会より）

***生態系サービス**：供給サービス（食料・木材・水等）、調整サービス（気候調整・局所災害緩和等）、生息・生育地サービス（生息・生育地環境の提供）、文化的サービス（自然景観・レクリエーション等）

「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」の概要

（４）森林の生物多様性を高めるための森林管理手法

（ア）多種多様な森林の配置（面的な管理）

- 一定の面的広がりにおいて、様々な樹種、林分構造、林齢などから構成される森林をバランスよく配置することが重要。
  ⇨市町村森林整備計画に定めるゾーニング等を踏まえた目標林型の設定

- 多様な生物の生育・生息地を維持するためには、森林の連結性を維持することが重要。
  ⇨伐採等の施業では人工林周辺の天然林等や、渓流沿いや尾根筋の森林を保残

様々な森林タイプがモザイク状に配置された景観
（北海道大学大学院農学研究院 2016

（イ）人工林における生物多様性保全に配慮した森林施業（施業手法）ほか

森林の多面的機能の発揮を目的とした関係法令や基準等を遵守するだけでなく、地域の自然状況等を踏まえた任意の活動を追加することで、森林管理の水準をより向上させることが可能

- **全ての人工林で共通して取り組むべき事項（関係法令に基づく基準等の遵守）**
  市町村森林整備計画に基づく森林施業の実施、土砂流出・土壌浸食の防止、渓畔林の保全
  （例）間伐や保育等の施業指針、「主伐時における伐採・搬出指針」（令和３年３月16日付林野庁長官通知）
- **自然条件等の状況に応じた任意で取り組む事項**
  ア）長伐期や複層林への誘導など目標林型の選択
  イ）作業種（地拵え、植栽、下刈り・除伐、間伐）毎の配慮（侵入広葉樹や枝条の保残等）や尾根筋の保全
  ウ）病虫獣害対策、外来種の防除、絶滅危惧種等の保全などの属地的な防護と保全
  エ）猛禽類の狩場創出、里山林の整備、火入れへの対応など、特定の目的のための取組

ア）複層林への誘導に向けた伐採

（宮崎県諸塚村）

イ）除伐時に植栽木の成長に影響しない広葉樹を保残

（茨城森林管理署管内国有林）

ウ）防護柵の設置

（事例集：サントリーホールディングスより）

エ）猛禽類等への配慮

営巣木、営巣木周辺等での施業を制限

「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」の概要

（４）森林の生物多様性を高めるための森林管理手法

（ウ）ポジティブリストの整理

生物多様性を高めるために、森林所有者や森林管理を担う事業体等が取り組むべき森林管理手法を整理して例示。
①共通　：関係法令の遵守や渓畔林保全など必須で取り組むべき事項
②状況別：属地的な自然条件等を踏まえた、林業事業体等が任意で取り組む推奨事項

ポジティブリストの概要

事項	①共通	②状況別
面的な管理	✓　様々な林分構造等から構成される森林配置	-
施業手法	✓　市町村森林整備計画の遵守 ✓　渓畔林等の保全 ✓　保護樹帯への影響の最小化	✓　長伐期化、複層林化 ✓　尾根筋保護樹帯の保残 ✓　広葉樹、保残木、枯損木、樹洞木の保残（保持林業） ✓　経済合理性が低い箇所の保残 ✓　最小限の刈り払いや整地 ✓　採取地が明らかな種苗の使用
病虫獣害	-	✓　シカ防護柵、単木保護資材の設置、シカの捕獲
外来種等	-	✓　外来種駆除
絶滅危惧種等	✓　絶滅危惧種等の情報収集	✓　絶滅危惧種等が認められた際の専門家への相談
里山林の整備	-	✓　里山資源の継続的利用
火入れ	-	✓　火入れ計画の策定、延焼防止

「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」の概要

（４）森林の生物多様性を高めるための森林管理手法

（エ）活動目標の設定とモニタリング、評価

①活動目標の設定

生物多様性の課題や地域社会のニーズ、森林経営方針等を考慮した目標の設定が重要

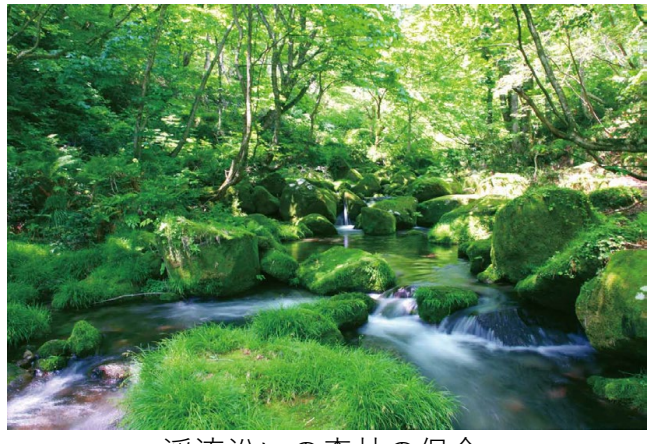
目標の例

- 一時的な草地環境創出するなど計画的な主伐によって林齢・階層の異なる林分をモザイク状に配置
- 在来両生類、魚類、水生昆虫等の生息環境改善のために、渓畔林を保全
- 里山環境の再生のため、二次林整備と未利用資源活用による地域産業の創出

伐採跡地の草地環境や渓畔林などのモザイク景観を計画的に形成

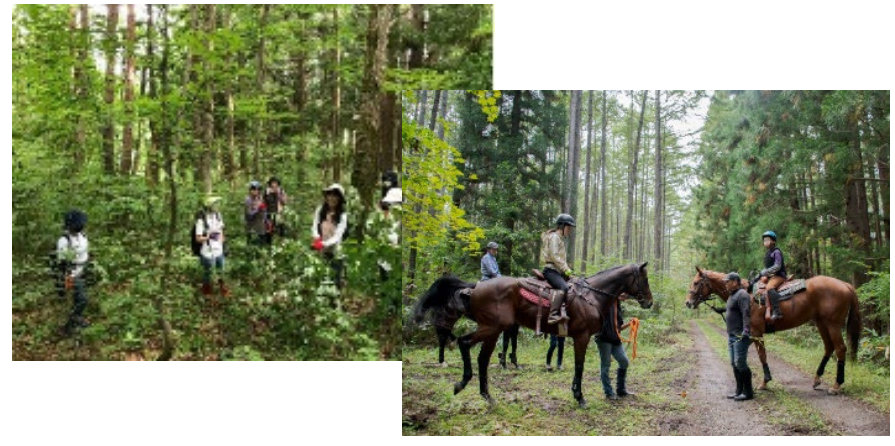
（事例集：三井不動産（株）より）

林齢や樹種の異なる複数段の複層林に誘導



渓流沿いの森林の保全

（事例集：サントリーホールディングスより）



里山二次林整備と森林資源を活用した新たな産業創出

（事例集：針生地区森林活性化活動組織より）

「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」の概要

（４）森林の生物多様性を高めるための森林管理手法

（エ）活動目標の設定とモニタリング、評価

②モニタリング

「活動状況のモニタリング」と「森林環境の状態のモニタリング」の両方を実施

<u>活動状況のモニタリング</u>

計画に基づき実施した施業履歴を記録
（施業箇所、面積、施業方法、保全活動の種類等）

（モニタリングの例）

森林経営計画に係る伐採等の届出書

年　月　日

市町村長（都道府県知事、農林水産大臣）殿

住　所

届出人　氏名　（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

認定番号第　　号をもつて認定された森林経営計画の対象となる森林につき下記のとおり伐採（造林、譲渡、作業路網の設置）をしたので、森林法第15条の規定により届け出ます。

記

所在場所				伐採					造林				譲渡					作業路網の設置			備考
都道府県	市郡・町村	字（大字）	地番	時期	主間伐別	伐採面積（ha）	樹種	伐採立木材積（m³）	時期	造林方法	植栽本数（本）	造林面積（ha）	時期	伐採の時期	伐採面積（ha）	樹種	林齢	伐採立木材積（m³）	時期	路線名	設置延長（m）	

注意事項
1　２以上の都道府県にわたるものにあつては、都道府県ごとに別葉とすること。
2　面積は、ヘクタールを単位とし、小数第２位まで記載し、第３位を四捨五入すること。
3　材積は、立方メートルを単位とし、小数第１位を四捨五入すること。

森林法第15条に基づく届出書の写しを保管

<u>森林環境の状態モニタリング</u>

森林施業を実施した林分で森林変化を定期的に観測
（少なくとも5年に一度実施）
⇨巡視・写真撮影等による記録やアプリを活用した特定の種等の記録

日時	○年○月○日	
場所	○○県○○市○林班	
実施内容（植生調査・巡視等）	・ヤマグワ・スダジイ等が確認された。林床植生は豊かに繁茂している。 ・巡視の結果、作業道からの顕著な土砂移動は認められない。	
特記事項	台風○号による倒木は確認されなかった。	
写真		主伐箇所の状況
		造林木と下層植生の状況
		集材路の状況

定点写真による記録

（事例集：（株）バイオームより）

アプリを活用したモニタリング

③評価（順応的管理（PDCA））

活動目標を設定・実施した上で、モニタリングを行い必要に応じて計画を見直す順応的管理「PDCAサイクル」を推奨

（参考）「森林経営計画」への生物多様性を高める取組の記載

- 「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」を踏まえ、生物多様性保全の取組に係るPDCAサイクルの実施を森林経営計画の作成を通じて行うことができるよう、令和7年３月に計画書の様式を見直し。
- 「森林の経営に関する長期の方針」の一部として、別紙様式「森林の生物多様性を高めるための取組」を新たに位置づけ、生物多様性を高めるための活動やそのモニタリング手法を任意に記載することが可能に。

生物多様性を高めるための取組（森林経営計画の別紙様式）記載例

目標の設定

- まず、森林経営計画の「森林の経営に関する**長期の方針**」で、**目指す森林の姿（目標）**を定めましょう。
- 次に、この**別紙様式**を使って、目標に応じた生物多様性を高めるための**具体的な取組**を考えましょう。

取り組む活動の特定

- ４つの**共通的な活動(●)すべて**について、計画対象森林の**全域で実施する必要**があります。

❶森林配置　❷渓畔林等の保全
❸撹乱への配慮　❹情報収集

- それ以外の活動(○)は、目標計画対象森林の状況に応じて実施します。

活動のモニタリング

- モニタリングは、**活動状況**のモニタリングと**森林環境の状態**のモニタリングの**両方を実施する必要**があります。

①活動状況
②森林環境の状態

- **継続的・時系列的に記録**することが重要であり、過大な労力やコストがかからないようにすることが大事です。
- 定期的な巡視機会、公的データ、地理的分布を表示するアプリなどを活用することが有効です。

認定書への記載

- 別紙様式に以上の必要な事項が記載されていれば、**認定書**において**「森林の生物多様性を高めるための活動に取り組む旨が記載されていることを確認した」**と記載されます。

1　計画対象森林で取り組む活動
（●は森林の種類・状態等に関わらず全域で共通して取り組むべきもの、○は状況に応じて取り組むべきもの）

チェック欄	活動内容	実施時期	実施場所
☑	●様々な樹種、林分構造、林齢、遷移段階等から構成される森林配置の計画	通年	全域
☑	●渓畔林等の保全、生物多様性保全に配慮した伐採・更新の実施	通年	全域
☑	●架線又は集材路の設置による保護樹帯又は保残木への影響の最小化	通年	全域
☑	○長伐期化、帯状又は群状伐採による複層林化	通年	人工林
☐	○尾根筋保護樹帯の設定・保残		
☑	○侵入広葉樹、枯損木、樹洞木、経済合理性の低い箇所等の保残	通年	人工林
☐	○植栽に必要な最小限の刈払い、整地		
☐	○採取地が明らかな種苗の使用		
☐	○水源域における生分解性チェーンソーオイルの使用		
☑	○シカ食害対策のための防護柵や単木保護資材の設置、わなや銃器等による捕獲等	通年	全域
☐	○外来種の駆除		
☑	●絶滅危惧種等の生育・生息情報の収集	通年	全域
☐	○絶滅危惧種等の生育・生息が認められた場合の専門家への相談、保全		
☐	○里山資源の継続的利用（定期的な伐採・保育、広葉樹用材林への誘導等		
☐	○計画的な火入れの実施		
☐	○その他（　　　　　　　）		

2　モニタリング

項目	内容
活動状況のモニタリング	•伐採、造林、作業路網の設置等の活動は、森林法第15条に基づく「森林経営計画に係る伐採等の届出書」に記載し、写しを保管する。 •シカ食害対策に係る活動は、定期的な巡視結果を記録する。火入れ活動は、実施箇所の写真を保管する。 •絶滅危惧種等の生育・生息状況の収集は、本計画に基づく活動の実施に先立って、○○県のレッドリスト（植物編、鳥類・昆虫編）を確認するとともに、○○社のアプリ○○を活用し、地域に生育・生息する可能性のある種を把握する。
森林環境の状態のモニタリング	•伐採等の活動の実施により森林の状況に変化がある場合には、定期的に（少なくとも５年間の計画期間のうちに１度以上）、森林巡視による観察や林況の写真撮影などにより記録する。 •普通種や絶滅危惧種等の生育・生息状況は、○○社のアプリ○○で随時記録するほか、地域住民やボランティア団体○○と協働して特定の種（○○）の定期的な調査を行う。 •本計画に従って産出される林産物の利用者等の関係者に対して、絶滅危惧種等の生育・生息状況に係る記録を除き、求めに応じて、モニタリング結果を提供する。

活動状況のモニタリング例

森林経営計画に係る伐採等の届出書

○年○月○日

○○市町村長 殿

住 所　○○市○○町○－○
届出人 氏名 ○○ ○○

認定番号○○号をもって認定された森林経営計画の対象となる森林につき下記のとおり伐採(造林、譲渡、作業路網の設置)をしたので、森林法第15条の規定により届け出ます。

記

所在場所				伐採					造林				譲渡						作業路網の設置			備考
都道府県	市郡・町村	字（大字）	地番	時期	主間伐別	伐採面積(ha)	樹種	伐採立木材積(㎥)	時期	造林方法	植栽本数(本)	造林面積(ha)	時期	伐採の時期	伐採面積(ha)	樹種	林齢	伐採立木材積(㎥)	時期	路線名	設置延長(m)	
○県	○市	○	2300	R0.0.0~R0.0.0	主伐	2.00	スギ	600	R0.0.0~R0.0.0	人工造林	2,500	2.00										植栽樹種スギ
○県	○市	○	2339	R0.0.0~R0.0.0	間伐	3.00	ヒノキ												R0.0.0~R0.0.0	木立○号	500	

計画に基づき実施した森林施業の箇所、面積、施業方法、保全活動の種類等について、施業履歴等として記録します。

森林環境の状態のモニタリング例

日時	○年○月○日	場所	○県○市○林班
実施内容（植生調査・巡視等）	• ヤマグワ・スダジイ等が確認された。林床植生は豊かに繁茂している。 • 巡視の結果、作業道からの顕著な土砂移動は認められない。		
特記事項	台風○号による倒木は確認されなかった。		
写真		主伐箇所の状況	
		造林木と下層植生の状況	
	…	…	

森林施業など活動に伴う森林の変化を巡視や写真撮影等により記録します。

- ➢ 認定書において、「森林の生物多様性を高めるための活動に取り組む旨が記載されていることを確認した」との一文が追記されます。
- ➢ 認定書の情報を木材のサプライチェーンの中で伝達していくことで、生物多様性の観点も含めて持続的な経営が行われている森林から生産された木材として選択的利用を促す有効な手段となり得ます。

森林経営計画について

様式